

# あおぞら

第52号



## 医療理念

1. 医療の原点に立った心温まる医療  
【Humanism】
2. 高度医療の提供  
【High Level】
3. 職員一同連携し仕事を通じての  
人間的成長 【High Growth】

## 目次

巻頭言 「糖尿病センターより」	2
フットケア外来	3
2019年度前期院内医療安全研修を終えて	4
連携病院のご紹介	6
ソフト部・バドミントンサークル紹介	7
外来週間診療予定表	8

医療法人

# 巻頭言

## — 糖尿病センターより —

糖尿病センター長  
副院長

赤澤 昭一



平成の時代が終わり、令和の時代を迎えました。新時代の要請に応える事が出来る病院でありたいと願っております。

私は2015年7月から糖尿病センターに勤務し、約4年が経ちました。紙面をお借りし、少し糖尿病についてお話をし、当院の取り組みについても紹介させていただきます。

我が国の糖尿病が強く疑われる患者数は1000万人を超えと言われ、なお増加しており、まさに国民病と言ってよい状況にあります。問題なのは糖尿病によって引き起こされる重篤な合併症です。代表的なものとして網膜症による失明、神経障害による足病変（足潰瘍、壊疽）、腎症による透析導入があります。また、大血管障害として虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、下肢閉塞性動脈硬化症（ASO）、脳血管障害などがあります。

とくに糖尿病による透析は透析全体の約4割を占めております。透析は患者さんに精神的、身体的負担がかかり、患者さん自身も大変ですが、莫大な医療費を必要とし、医療経済を圧迫する要因の一つでもあります。

当院では、約100名の患者さんに「糖尿病透析予防」を行い、透析導入に至らない様に管理を行っています。受診毎に医師、栄養士、看護師の三者が管理を行い、腎症の進行を防いでおります。万が一、末期腎症まで進み、透析が必要となった場合でも腎センターにおいて透析治療を受ける事が出来ます。

前にも述べましたが、糖尿病は狭心症、心筋

梗塞などの動脈硬化疾患が生じやすく、気づかないうちに重症化している場合が多くあります。当センターでは、動脈硬化のスクリーニングとして、受診時に頸動脈エコーの検査を行い、スコア以上であれば、心臓CTの検査を実施します。病変が進行している場合は、心臓血管センター（循環器内科、心臓血管外科）において、PCI（経皮的冠状動脈形成術）やバイパス手術などの治療を受ける事が出来ます。

また、糖尿病は足に病変が生じやすく、とくにASO、神経障害が存在しますと短時間のうちに重症化します。この様なことを防ぐため外来の診察と平行して常時、フットケアを行っています。皮膚の乾燥、角化、胼胝（タコ、ウオノメ）、白癬（水虫）などの病変があれば早期のうちにケアを行い、患者さんの足を健康な状態に保つ様に心掛けています。

皆さま方の御要望やニーズに応え、新時代にふさわしい病院となる様、努めて参りたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。





# フットケア外来



光晴会病院では、専門外来として糖尿病センターを運営しています。2013年10月に独立して、早いもので6年が経ちました。医師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、検査技師、看護師がチームとなって、日々の診療や糖尿病教室を通じて患者さん第一の精神で活動しています。

『糖尿病』と言えば合併症が怖い!!と、まず頭に浮かぶと思います。しかし、何の自覚症状もなければ、その気持ちは薄らぐものです。

私たちは「合併症予防」「起きてしまった合併症の進展予防」のために、フットケア、透折予防指導を実施し、眼科や歯科の定期受診の必要性も患者さんへお伝えしています。

今回は合併症の『しめじ』『えのき』から、**し**(神経障害)・**え**(壊疽)に関係する当院での**フットケア**をご紹介します。

フットケアは、糖尿病外来の受診と並行して月曜日から金曜日の午前、毎日行っています。そして、**フットケア外来**として毎週木曜日の午後に設けています。糖尿病と足病変について、ケアの必要性をその都度指導して、爪切り、胼胝処置、足浴、白癬の治療薬の塗布や使用法の説明、足のマッサージを行っています。

フットケアは、呼び入れるときから始まっています。椅子からの立ち上がり、歩行のバランス、靴、脱いだ後の靴の変形、靴底の減り具合、足指の下に画用紙ほどの厚さの紙を差し入れて、「浮指」(地面に足の指がついていないことです。膝・腰の痛み、巻き爪の原因にもなります)のチェックを行っています。笑顔で呼び入れています。その内面は眼光鋭いんですよ(\*^▽^\*)。

フットケアの際に、自宅での足のケアについてお聞きしますが、なかには、「どうしても足は洗わん、面倒かもんね」(身体的障害はありません)。「水虫の薬は1回も使うたことはなか!! そいけん、余っとるよ」(なぜか、どや顔)このような手強い患者さんもいらっしゃいますが、「足だけはきれいにしとるよ。靴下はもちろん白やろ!!」(鼻の穴を大きく膨らませて、靴下を見せられました)。このような患者さんもいらっしゃいます。だから糖尿病看護は面白くてたまりません。



**人間だもの。**『相田みつを』さんの有名なことばですが、私たちは患者さんから多くのことを学びます。毎日が社会勉強でもあります。患者さん、お一人お一人の歴史や生活環境を踏まえて、尊重し、環境の変化を表情や皮膚の色・状態、姿勢、歩き方から読み取り、その時に合った良質な療養指導を提供する必要があります。

\*当センターでは他にもインスリン注射手技の確認を通して、血糖の推移や低血糖・高血糖の原因について患者さんと共に学んでいます。

2019年度前期

# 院内医療安全研修を終えて

医療事故の原因の大部分はチームワーク不備によるコミュニケーションエラーが関係していると言われています。今回、当院では医療安全研修会のテーマを『医療機関職員がもつべきコミュニケーションスキル』と題し、組織のチームワークを向上させ、コミュニケーションエラーを少なくしていくことを目的に開催しました。講師にはSOMPIリスクマネジメント株式会社の泉泰子先生を招き講義をしていただきました。

医療の現場では日々多くの専門職員が連携し、情報を共有しながらチーム医療を提供しています。

講義の中では有効なコミュニケーションツールが分かりやすく紹介され、あらためて学びの機会となりました。

以下に当院多職種からの研修受講後の感想を紹介させていただきます。



### ミスコミュニケーション発生時の対応

何でちゃんと確認しなかったの？  
言ったでしょう？  
わからなかったら最初に言いなさいよ！

「相手が悪い」の繰り返しでは、負のスパイラル

「自分の伝え方が悪かった」と理解する

伝達不足だった点  
曲解されたのはなぜ？  
教育不足？  
能力把握ができていなかった？

自分の非ととらえ成長の糧に！

これができなければ、結局は相手の能力に依存するコミュニケーション弱者のままとなる

## 臨床工学技士



相手に自分の伝えたいことが伝わらなかったらコミュニケーションは成立しないという事実で共感を受けた。特に仕事上新人とベテランでは情報量に大きな差が生じており、コミュニケーションが成立しないことがある。自身も自分の伝えたいことばかりを優先して話してしまうため、今後は一歩立ち止まって相手の情報量を頭の中に入れてコミュニケーションをとり、医療事故を防止していきたい。



## 放射線技師

日頃のコミュニケーションを見直すいい機会となった。普段から略語や曖昧な言葉を使うことが多いため、聞き間違いや、解釈を誤ってしまうことがあった。曖昧なことは明確になるまで確認し、正確な情報共有を行い、患者さんの安全を第一に考えコミュニケーション不足によるエラーをなくしたい。



## 医事課職員

自分の常識が、相手にとっても常識であるとは限らない、自分の中での「あたりまえ」が、相手にとっての「あたりまえ」ではないこと等、公私ともに言えることだと思う。こと、仕事に関しては、「報連相」とよく言われるが、これも、情報の伝達に支障を来たす事がないようコミュニケーションがとりやすい職場環境にしなければならない。



## 臨床検査技師

個々のコミュニケーションスキルを上げるためには①聴く人の聴き方②医者・管理者・年長者・立場が上位の人間への話し易さ③部署の雰囲気が大切であると痛感した。コミュニケーションはキャッチボールと同じ。いくらい球を投げて的が小さいと届かない。聴く人が的を大きくして話し易いようにする。コミュニケーションの基本はみんな笑顔で話しやすい雰囲気作りと聞き方と思った。



## 薬剤師

改めて重要と感じたのは自分が伝えたかったことと相手に伝わったことは必ずしも一致しないとのことであった。相手に伝わるように、丁寧に伝えようと普段から心掛けているが、実際には自分の意図したことが伝わっていないことも多く経験する。今回教えて頂いたコミュニケーションスキルも身につけられるように努力していきたい。



## 看護師

私自身が、情報を伝えるだけになってしまうことがあるため、確実に伝わったのか確認する必要があると実感した。また、伝えられる立場になった時も、自分がどう解釈をしているかを相手に伝えることが、伝えられた責任でもあると感じた。



## 看護補助者

コミュニケーションを阻害する心理のうち気になった点は、分からないことを聞くのは恥ずかしく抵抗があること、聞きたい相手の口調が怒っているように感じる事、気軽に聞ける雰囲気ではないこと。普段からあまりコミュニケーションをとっていない人や話しにくい人とはコミュニケーションを阻害する心理が働いていたように感じる。伝えられたことを理解出来るまでしつこいほど何度も確認する勇気も必要だと感じた。



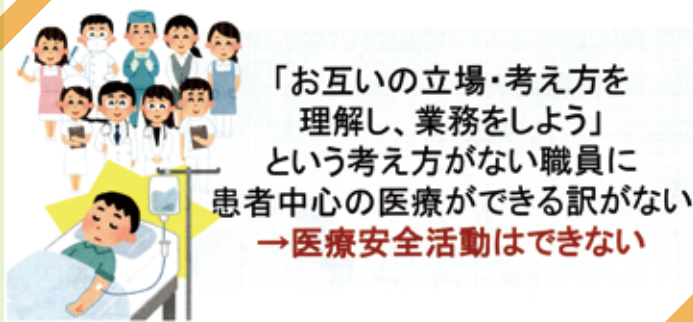
## 総務課職員

コミュニケーションの基本は、発信者・受信者が理解し共有し合うことで成り立ち、その質は双方向のコミュニケーションスキルに左右されることを痛感した。  
またパワハラはこのコミュニケーションを阻害させる最大要因であり、パワハラがない職場環境の醸成が大切であると理解した。お互いの立場や考え方を理解して、医療機関職員として医療安全活動に邁進していきたい。



## 医師

“医療事故は患者さんの命に直接影響する可能性があり、その7割には医療者間のコミュニケーションエラーが絡んでいる”。コミュニケーションの重要性を再認識した。逆に十分なコミュニケーションをとることにより防げるエラーも少なくない。“Stop the Line”、“SBAR”、“CUS”、“コメントリー・オペレーション”などの概念を念頭に置き、受け取る方の身になってコミュニケーションをとるトレーニングを日ごろから積む必要があると思われる。



以上のように各専門職種から研修受講後の率直な感想を頂きました。  
また、“ハラスメント”行為がコミュニケーションエラーを引き起こすことに繋がるという内容もあり、病院職員一人ひとりが、良好な職場環境を意識しながら聴講できたのではないかと思います。  
今回の研修を機にチームワークの基盤ともなる双方向のコミュニケーションスキルが、組織全体で向上していくことを期待します。

## 連携病院のご紹介

# なかしま内科クリニック



**はじめに:**当院は本年の7月に長崎市葉山(馬場家具ビル2F)に産声をあげたばかりの内科クリニックです。長崎みなとメディカルセンター(旧長崎市立市民病院)にて29年間、私は心臓病の診療、中でも心臓病の救急に力を傾注してきました。急性心筋梗塞、心不全、肺塞栓症などの生命の危機に瀕した患者さんの救命と社会復帰への手助けが私に与えられ、かつ、私が選んだ使命でした。循環器救急システムの構築、心臓血管外科との連携、診療範囲の拡充などみなとメディカルセンターで私が行うべき仕事はほぼ実行してきました。そして、環器救急疾患という急な不幸を未然に防ぎたいと考えるようになったことが開業の動機のひとつです。クリニックの現在の柱、目標を下記に述べます。

**ひとつめの柱:**働いている人の受診機会を増やしたいと思っています。検診などで生活習慣病(高血圧、糖尿病、脂質異常症など)を指摘されているにもかかわらず、治療を受けていない40代、50代の方が実に多い現実があります。また、せっかく治療を開始したにも関わらず、治療を中断してしまう方も少なくありません。生活習慣病への早期介入は心筋梗塞や脳血管障害を予防する最も有効な方法です。そのため、少しでも働いている人が受診しやすいように、水曜日から金曜日までは20時まで、土曜日と日曜日は18時まで診療を行うようにしました。実際、日曜日などは比較的に遠方の方も受診されており、今までで最も遠方から来られた患者さんは小値賀町にお住いの方です。

**ふたつめの柱:**心不全患者さんを地域で支えるような仕組みを作りたいと思っています。再発をくりかえす心不全患者さんの増加が顕著になってきています。冬季の循環器病棟のベッドの大半は、80代、90代の

御高齢の心不全患者さんで占められている現状があります。長崎市では全国に先駆けて高齢化が進行しており、坂道・階段が多いなどの心不全の増悪を招きやすい住居環境もあります。私の経験から、心不全の再発予防は大規模病院単独では達成できません。患者さん、御家族、医療(病院とかかりつけ医)、介護との密接な連携が不可欠なのです。クリニックの外での活動、すなわち、積極的に地域の方々への情報提供を行い、介護職、薬局、訪問看護師との連携を深めたいと願っています。

**みつつめの柱:**睡眠時無呼吸症候群(SAS)の積極的なスクリーニングを行いたいと意図しています。SASは高血圧、糖尿病の発症リスクを高めるだけでなく、心房細動、心筋梗塞および脳血管障害の独立した危険因子でもあります。SASは心筋梗塞患者さんの生命予後にも密接に関連してきます。その一方で、SASは見逃されやすい疾患でもあります。治療抵抗性高血圧、発作性心房細動、および心筋梗塞や脳血管障害の既往がある患者さんに対しては、広くスクリーニングしていく必要があると思っています。

**おわりに:**私は1987年7月1日より1990年3月31日までの2年9か月間、光晴会病院に勤務しました。在職中にいろんな先生方、看護師さんのお世話となり、冠動脈造影検査も開始となって、医者としての基盤をも形成して頂きました。入院治療が必要な患者さん、CT検査などが必要な患者さんを貴院へご紹介したいと思えますので、よろしく願い致します。私の入院の必要性の判断に関しては、over-triageになることもあるかと思いますが、その際はご容赦を頂けましたら、幸いです。



## なかしま内科クリニック

金曜日の午前中は女性医師による  
外来(中嶋 遙美医師;糖尿病など)  
を行っています。  
休診日 月曜日・火曜日・祝日



診療時間	水	木	金	土	日	月	火
9:00~13:00	○	○	○	○	○	-	-
15:00~18:00	○	○	○	○	○	-	-
18:00~20:00	○	○	○	-	-	-	-

## ソフト部紹介

光晴会病院ソフト部の林です。

私たちのソフト部は、楽しく、あまりきつ過ぎずをモットーに活動しています。やる時は全力でやる、やらない時は全力で休む、そのメリハリのおかげか去年は十数年ぶりに県大会に出場する事ができました。

私たちは野球経験者より未経験者の方が多く、キャプテンである私も未経験者です。決して強いわけではありませんが、どこのチームよりも楽しくプレイしている自信があります。楽しくソフトをしたい方は是非、未経験の方も気軽にご参加ください。



## バドミントンサークル紹介

私たちバドミントンサークル『リクセル』は週に1回活動しており、初心者から上級者まで、幅広いレベルの人が楽しくプレーしています。

「もっと上手になりたい」「手軽な運動がしたい」「ストレスの発散に」と一人ひとりの活動目的を達成できるサークルを目指して活動しています。

また、定期的に食事会を開催しており、メンバー同士の交流を深めています。

とにかく楽しい思い出がたくさんできるサークルです！



# 外来週間診療予定表

2019年10月現在

		月	火	水	木	金	土
内科	3 診	田浦直太 (消化器)	宮副由梨 (消化器)	吉岡正人 (一般内科)	宮副由梨 (消化器)	柴田雄一 (一般内科)	心療内科 (午前) 不定期休み
		福田康弘 (消化器)					
	4 診	宮崎健一 (腎臓・一般内科)	柴田龍二郎 (腎臓・一般内科)	福田康弘 (消化器)	大坪俊夫 (腎臓・膠原病)	柴田龍二郎 (腎臓・一般内科)	
		河野仁寿 (呼吸器)	森川伸雄 (呼吸器)	河野仁寿 (呼吸器)	森川伸雄 (呼吸器)	河野仁寿 (呼吸器)	
5 診	河野仁寿 (呼吸器)	森川伸雄 (呼吸器)	河野仁寿 (呼吸器)	森川伸雄 (呼吸器)	河野仁寿 (呼吸器)		
6 診	和泉元衛 (甲状腺・肥満)	赤星 浩 (消化器)	柴田雄一 (一般内科)	赤星 浩 (消化器)	和泉元衛 (甲状腺・肥満)	和泉元衛 (甲状腺・肥満)	
循環器内科	7 診	こうのまさき 河野政紀	石崎正彦		こうのまさき 河野政紀	石崎正彦	
心臓血管外科	8 診	ふるたち あきら 古舘 晃	迎 洋輔		古賀秀剛	古賀秀剛	
泌尿器科	9 診	山下修史	あらかききょうへい 荒木杏平	山下修史	大学医	あらかききょうへい 荒木杏平	
外科	10 診	岡田和也	岡田和也	大学医	進 誠也 (おなかのヘルニア (脱腸) 専門外来)	進 誠也 (おなかのヘルニア (脱腸) 専門外来)	
	11 診	岸川博紀	甲 菰子	岸川博紀	岸川博紀	田中史朗	
				田中史朗	やまくち いずみ 山口 泉	吉本 浩 (形成外科)	
【午後】 14:00 ↓ 16:00	3 診				吉岡正人 (一般内科)		
	4 診		大坪俊夫 (CKD 専門)	宮崎健一 (CKD 専門)			
	8 診		第 1.3.5 週 13:00 ~ 15:00 古賀秀剛 (下肢静脈瘤専門)				
糖尿病センター 9:00 ~ 12:00		赤澤昭一 有森春香	赤澤昭一 世羅康徳	赤澤昭一 世羅康徳	赤澤昭一 世羅康徳 フットケア	赤澤昭一 世羅康徳	

※ 診 療 科 目：内科・外科・泌尿器科・循環器内科・心臓血管外科・消化器科・リウマチ科・リハビリテーション科・呼吸器科・腎臓内科・形成外科・肛門外科・糖尿病内科・麻酔科

※ 診療受付時間：午前 8:30 より 午前 11:30 まで ※ 予約制ですので、できるだけ予約をお願い致します。

光晴会病院 地域医療連携室 TEL 095-857-3563 (直通) FAX 0120-573-632 (直通)

(コミュニケーションマガジン) 編集委員

編集・発行責任者：岡田 和也

編集スタッフ：金子(顧問) 向井・岩谷(南3階) 杉内(北4階)  
山下・門田(外来) 白木(血液透析室) 平野(中材)  
坂本(臨床工学科) 下田(総務課)

医療法人 光晴会病院

〒 852-8053 長崎市葉山 1 丁目 3 番 12 号

TEL095-857-3533 FAX095-857-2572

http://www.kouseikai.org/